熊本市立植木北中学校学校だより　第１１号

日　進　月　歩

令和８年６月２５日（木）
校長　坂本正二
「可能性は無限大（∞）」
植木北中 HP→

勝ちたかった…でも届かなかった　悔しさは後輩に託します

6月20日（土）、女子バスケットボール部が熊本市中体連大会に出場しました。顧問の先生が変わり、また新たに外部コーチや新入部員を迎えての、新体制での参加でした。大会前の練習や練習試合を見せてもらいましたが、この大会に向けて一人一人の意識が高まり、競技力が向上していく様子が感じられました。大会当日は応援に行くことができませんでしたが、保護者の皆様や本校の先生方の応援を受け、子どもたちが最後まで一生懸命頑張ったとの報告を受けました。第2クォーターには17―20まで追い上げ、拮抗した試合を展開することができたそうです。後日、3年生の2人が、大会の報告とこれまでの応援への感謝の気持ちを伝えに来てくれました。

「とても緊張しました。しかし、たくさんの応援を受けて、力が湧いてきました。」

「勝ちたかったです。だからこそ、悔いが残ります。この悔しさは、1・2年生に託します。」

悔しさの中にも、確かな手ごたえを感じたようです。爽やかな表情で大会を振り返ってくれました。二人とも最初はバスケットボール部に入るつもりはなかったそうです。当時の顧問の先生やご家族に勧められて入部し、今では「部活動がとても楽しかった。今でも練習したいです。」と話してくれました。その表情からは、競技に打ち込んできたことへの達成感が感じられました。「勝ちたかった」という3年生の思いは、後輩にしっかりと引き継がれていくことでしょう。

なぜ人権があるのか？

熊本市では6月を「心のきずなを深める月間」と定め、学校・家庭・地域が互いの役割と責任を強く自覚し、日頃からのいじめの未然防止に向けての取組を推進しています。それを受けて、本校でも6月12日（金）、校内人権集会を開催しました。生徒指導主事の先生の進行のもと、「人権とは何か」「なぜいじめや自殺が起こるのか」などの問いかけを通して、子どもたち一人一人が自分の考えを発表しながら、差別や人権上の諸問題について考えました。集会の中で示された「なぜ人権があるのか」という問いに対し、子どもたちからは「安心して生活するため」「平等に生活するため」「未来のため」など様々な意見が出されました。それらを受けて先生は、「あなたがこの世に生まれてきたからです」と語られ、人権の大切さをわかりやすく伝えられました。さらに、「人権を守ることは決して難しいことではない」「相手の話を聞くことも人権を守ることの一つです」という話をされました。日頃の学校生活に目を向けると、子どもたちは互いを大切にし、思いやりを持って行動できている様子が見られます。しかし、このような機会を通して「人権」という視点から自分自身の言動を振り返ることは、大変意義深いことです。今回の学びを今後の生活に生かし、よりよい人間関係づくりにつなげてくれることを期待しています。

みんなで声を出し、ボールをつなぐ

サッカー部、女子バスケットボール部の熊本市中体連大会が終わり、いよいよ最後に女子バレーボール部が6月27日（土）から大会に出場します。昨年度は、部員が1年生のみであったため、経験面を考慮し出場を見合わせました。今年は満を持して初めての中体連大会への出場となります。これまで練習では、互いに声を掛け合いながらチームワークを築くとともに、スパイクやレシーブ、トス、サーブなど、各ポジションで求められる技能の習得に励んできました。大会を前に、子どもたちは次のように意気込みを語ってくれました。

「後悔しないように、練習で培った力を存分に発揮したいです。」

「声を出し、ボールをつなぐ、自分たちらしいバレーボールをしたいです。」

初めての中体連大会になりますが、チャレンジ精神を大切にし、のびのびとプレーしてほしいと思います。